

令和5年度 指定管理施設評価票

1 基本情報

(令和6年3月31日時点)

施設名	港区立がん在宅緩和ケア支援センター ういケアみなと						
指定管理者	学校法人慈恵大学						
指定期間	令和 5 年 4 月 1 日 ~ 令和 10 年 3 月 31 日						
募集方法	公募	グループ化の有無	-	利用料金制の採用	-	使用許可権限の付与	-
施設所管課	港区みなと保健所健康推進課						

2 職員体制

(単位：人)

	正規			非正規			委託（シルバー人材センター等）	合計
	常勤	非常勤		常勤	非常勤			
職員数	7	5	2	2	0	2	0	9
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	備考	
正規・非正規職員の退職者数	0							

3 指定期間における事業実績

事業実績	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	備考
施設利用者数（人）	2,230					
がん相談件数(件)	301					
アピアランス相談件数(件)	5					
両立支援個別相談件数(件)	10					
イベント開催数	119					

4 指定期間における経費実績

(単位：円)

項目		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	備考
経費実績	収入	80,632,541	0	0	0	0	
	指定管理料（清算後）	80,632,541					
	利用料金収入	0					
	その他収入	0					
	支出	80,117,903	0	0	0	0	
	職員人件費	49,809,835					
	光熱水費	1,047,706					
	修繕費	99,000					
	事業運営費	13,785,036					
	施設管理経費	4,247,326					
その他経費	11,129,000						
差引収支額	514,638	0	0	0	0		
年度協定書で定める指定管理料	86,184,000						

5 管理運営状況に対する評価

項目	評価視点	指定管理者による評価	区による評価			
			評価	加算	点数	
【施設の維持管理】	① 設備機器の保守管理	仕様書等に従い、適切に設備機器の保守管理が行われ、利用者の安全・安心が確保されていたか。	- / -	- / -	×1	- / -
	② 清掃及び衛生管理	仕様書等に従い、適切に清掃及び衛生設備の保守管理が行われ、施設が清潔に保たれていたか。	5 / 5	5 / 5	×1	5 / 5
	③ 修繕対応	迅速に修繕がなされ、利用者の安全・安心が確保されていたか。	3 / 5	3 / 5	×1	3 / 5
【事業運営】	④ サービスの向上	事業計画書で定めた事業を適切に実施するとともに、公募時の提案や利用者の声を事業に反映するなどサービス向上を図っていたか。	3 / 5	3 / 5	×5	15 / 25
	⑤ 職員配置	事業計画書等で定めたとおり、必要な知識や技能を持った職員が適正に配置されていたか。	5 / 5	5 / 5	×2	10 / 10
	⑥ 人材育成	施設長や職員に対する研修などにより、サービスの向上に向けたスキルアップに取り組んでいたか。	3 / 5	3 / 5	×1	3 / 5
	⑦ 労働環境	区が定める最低賃金水準等を遵守するとともに、ハラスメントが通報されないなど、職員にとって良好な労働環境が確保されていたか。	5 / 5	5 / 5	×2	10 / 10
	⑧ 安全管理・危機管理	施設の日常安全点検を実施するとともに、災害や事件・事故発生時の体制や対応の確立などにより、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	5 / 5	×3	15 / 15
	⑨ 個人情報保護・情報セキュリティ	個人情報や情報セキュリティの社内規程を整備し、区の規程とともに遵守して、適正に運用していたか。	3 / 5	3 / 5	×1	3 / 5
	⑩ 区施策への協力	高齢者や障害者の雇用促進、区内事業者の活用、施設の省エネ促進等、区の施策を理解し積極的に協力していたか。	5 / 5	3 / 5	×3	9 / 15
区による評価合計点						73 / 95

【各項目の評価について】

5点：当該項目に係る事項については、充実した取組が展開されていた。

3点：当該項目に係る事項については、概ね適切に取り組んでいた。

1点：当該項目に係る事項については、更なる取組の推進が必要であった。

※複合施設の入居施設等で、当該施設の指定管理者が設備機器の保守管理等を直接実施していない場合、該当項目は「-：評価対象外」とします。

指定管理者による自己評価	男性がん患者を対象にしたプログラム「くすの木」を6月より定例開催、新たな層に向けた体制を整えました。 職員体制については、中途退職者が出ずに安定的に人材確保できていることは強みです。各々が役割意識を持って業務に取り組んでいると考えます。 一方で、がんを患う方とご家族の背景や思いを、相談員に限らず、事務員も理解し対応できることが望ましいと考えます。職場内での情報共有や勉強会、コミュニケーションスキルの向上に努めます。
区（施設所管課）による評価	がんに関する医療や在宅緩和ケアに関する相談をはじめ、外見（アピアランス）相談、がん治療に適した栄養セミナーの開催など在宅での療養生活の支援を行っています。また令和5年度は男性がん患者を対象に、参加者同士の会話を目的としないプログラム「くすの木」を開催し、新たな試みを行いました。その他にも、毎月数回実施している「くつろぎカフェ」を各地区の区有施設で実施し、200人以上の来館者数を記録しました。今後も、区内の関係事業者、施設等との連携を強化するとともに、施設のポータルサイトやイベントチラシの配布等を通じて幅広い周知活動に取り組むよう促していきます。

6 評価

令和5年度の管理運営に関する総合評価

B

【総合評価について（項番5における区による評価合計点の得点率）】

S：施設の管理運営は特に優れていた（90%以上）

A：施設の管理運営は優れていた（80%以上90%未満）

B：施設の管理運営は適切に行われていた（60%以上80%未満）

C：施設の管理運営に改善が必要であった（60%未満）